

**平成28年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立小田川小学校長

平成28年4月19日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語と算数の2教科の実施となりました。

国語と算数の2教科については主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	72.9%	○				
国語B	57.8%					○
算数A	77.6%					○
算数B	47.2%	○				

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	79.2%	○				
書くこと	72.8%	○				
読むこと	78.5%	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1%					○

【考 察】

- 話すこと・聞くことでは、話の内容を理解し、意見を整理しながら聞くことに課題がありましたので、話し合いをする際には、出された意見を整理して話したり、聞いたりできるよう指導していきます。
- 書くことでは、読み手にわかりやすく伝わるように工夫して書くことに課題がありましたので、今後は、具体的にわかりやすい表現を例示し、それらを意識して書くよう指導していきます。
- 読むことでは、内容を的確に読み取ることに課題がありましたので、今後は、大切な言葉や根拠となる文章に着目して、読み進められるよう指導していきます。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、漢字の先取り学習に取り組み、学校や家庭で繰り返し漢字練習やミニテストに取り組んできたことで成果が表れました。ローマ字などを含め、今後も継続して指導していきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	51.1%	○				
書くこと	53.4%					○
読むこと	69.3%					○

【考 察】

- 話すこと・聞くことでは、目的に応じて質問したいことを整理することに課題がありましたので、目的や条件に応じた質問内容を考えさせる指導を続けていきます。
- 書くことでは、目的や意図に応じて自分の考えを書く学習に力を入れて指導してきました。今後も、内容を読み取った上で、条件に応じた文章が書けるように指導を続けていきます。
- 読むことでは、2つの資料から必要な情報を取り出して読み取ることができました。今後も、文章の内容や構成、巧みな表現などに着目して読み取れるように、指導を続けていきます。

【算数A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	80.5%					○
量と測定	77.0%					○
図形	78.8%					○
数量関係	68.5%	○				

【考察】

- 数と計算では、授業中に習熟の時間を設けるなどして、計算練習に取り組んだ効果が表れました。小数÷小数の計算方法に課題がありましたので、1より小さい数で割ると、答えが割られる数より大きくなることや、割られる数と割る数に同じ数をかけても答えは変わらないことを確認しながら、正確な計算ができるよう指導していきます。
- 量と測定では、図や道具を使って考えさせることにより効果が表れました。しかし、小数の大きさの比較に課題がありましたので、数直線を活用しながら数の大きさが理解できるように指導していきます。
- 図形では、三角定規・分度器の使い方や作図の仕方を丁寧に指導した結果、効果が表れました。さらにそれぞれの図形の底辺、高さをとらえさせながら指導していきます。
- 数量関係では、割合の問題に課題がありました。何がもとにする量で、何が比べられる量なのかを判断できるように、指導していきます。

【算数B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	44.4%	○				
量と測定	43.7%	○				
図形	36.3%			○		
数量関係	42.9%	○				

【考察】

- 数と計算では、計算の仕方を説明することに課題がありました。図と式を関連付けながら説明する力が身に付くよう指導していきます。
- 量と測定では、どのようにして求めたかを順序よく説明することに課題がありました。説明を書いたり、発表したりする活動を繰り返し行っていきます。
- 図形では、図形の性質をもとに式を説明する問題に課題がありました。問題解決のために、根拠となる図形の性質を十分に理解させるとともに、筋道を立てて説明する考える活動を取り入れながら指導していきます。
- 数量関係では、表やグラフから情報を読み取ることに課題がありました。数量の間の関係を図で表す活動を取り入れたり、判断の理由を明らかにさせたりするなどの工夫をしていきます。

**平成28年度 全国学力・学習状況調査
質問紙調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立小田川小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や読書の様子など家庭生活に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していきたいと思っております。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、て、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

1 普段（月～金）、授業以外にどのくらいの時間を学習していますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	小田川小	0.0	7.7	76.9	15.4	0.0	0.0
6	全 国	10.8	14.7	37.0	25.4	8.9	3.0

(単位 %)

【考 察】

○ 家庭学習の時間は、大部分の児童が、学年の目標である70分を満たしています。家庭学習の内容を工夫したり、家庭との連携を強化したりする取組を通して、さらに、家庭学習や自主学習の習慣化が図られるようにしていきます。

2 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

		している	どちらかとい えばしている	あまり していない	全く していない
小	小田川小	23.1	46.2	30.8	0.0
6	全 国	26.7	35.5	28.8	9.0

(単位 %)

【考 察】

○ 本校では、「家庭学習カード」を使って、自分で計画を立てて学習に取り組むよう指導しています。「している」、「どちらかといえばしている」が7割程度です。

○ 昨年よりも、「している」と回答した児童が増えています。が、「あまりしていない」と回答している児童が3割おります。今後も「家庭学習カード」を活用し、学習に取り組むよう声をかけていきます。

3 普段（月～金）、授業以外に1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
小	小田川小	0.0	15.4	30.8	38.5	0.0	15.4
6	全国	6.8	9.9	19.8	27.0	15.9	20.6

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの児童が、毎日、読書を行っています。本校では、登校してから始業開始時刻までを「読書タイム」として、全校生で読書に取り組んでおり、そのことが、授業以外の時間や家庭での読書につながっていると考えられます。
- 日常生活の中で、読書が習慣化されるように、読みかけの本を常に持つことを奨励したくさん本を読んだ児童の表彰などの活動を行ってきました。また、「ノーメディアデー」の取組などを通して、テレビやゲームの時間を減らして読書にあてるように働きかけていきます。

4 普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
小	小田川小	0.0	0.0	0.0	46.2	46.2	7.7
6	全国	8.2	7.8	13.7	25.3	31.1	14.0

(単位 %)

【考 察】

- 本校では、テレビゲームは時間を決めてやるように指導しています。2時間以上行っている児童数が昨年度より大きく減り、ゼロになりました。学校や家庭の取組の成果が出ていると考えられます。1時間以上行っている児童も半数近くいますので、取組を続けていきます。
- 毎週水曜日の「ノーメディアデー」を児童に意識させたり、家庭に協力を呼びかけたりするとともに、「ノーメディア標語コンクール」の実施などを通して、メディアの適切な活用が図れるように、さらに取り組んでいきます。